

【演題名】

新生児集中治療室（NICU）に入院した後期早産児の母親が抱く想い

高橋智恵¹・小野有紀^{2・3}・小柳星華^{2・3}・岸千尋^{2・3}・手塚麻耶^{2・3}・市川香織^{3・4}
chiyoiro〜ちよいろ〜助産院¹・ピジョン株式会社²・ピジョンにっこり授乳期研究会³・
東京情報大学⁴

抄録本文

【目的】

NICU に入院した後期早産児の母親の想いを明らかにする。

【方法】後期早産児の母親 7 名の半構造化面接を質的記述的に分析した。倫理的配慮は個人情報と匿名性の保護を明示し書面で本人の承諾を得た。

【結果】208 コードの母親の想いが導き出され 25 カテゴリーに分類された。母親は妊娠には【妊娠週数延長への願い】【管理入院へのネガティブ感情】【予定が変更になることへの戸惑い】【自覚や心の準備が不十分】【「通常の妊娠・出産」への諦め】を感じていた。急な出産には【赤ちゃんの無事を願う】【余裕がない】【赤ちゃんとの面会や早期母子接触への諦め】を感じていた。NICU では【NICU での他児との状況比較】【慣れない NICU での辛さ】を経験し【わが子の命が優先】【わが子に触れることへの怖さ】【わが子への申し訳なさ】【母子分離への葛藤】とわが子への想いを語った。授乳では【母乳への理想と現実】【授乳の喜び】【授乳の負担】【ミルクの肯定】といったアンビバレントな想いに揺れていた。また【医療従事者への満足感】【医療従事者への遠慮】【医療従事者への不満】を回想し【後に出現した医療従事者への要望】が語られた。

【考察】母親は急な管理入院や出産に戸惑い通常の妊娠・出産を諦めざるを得なかった。また母子分離や授乳に葛藤する気持ちを抱いており、支援が必要な時期にも関わらず NICU で重篤な他児とわが子を比較し医療従事者に遠慮している実態がわかった。